

「後世へと引き継ぐ平和と命の尊さ」

秋田大学教育文化学部附属中学校 3年D組 三浦有純

終戦から七十八年。今、この瞬間も止まることなく時は流れている。そして、その流れの中で、十四歳の私は現在将来に希望を持ち、精一杯生きている。しかし、今私が生きていることは当たり前のことではなかった。

今までに、広島や長崎の戦争体験者の方、そしてこの秋田市にも戦争の爪痕が残されている「日本最後の空襲」と言われた土崎空襲の体験者の方から、戦争の悲惨さについて話を聞いたり、戦時中の写真や資料を実際に見たりする機会があった。体験者の方からは、悲痛な思いや戦争の^{むご}惨さがありありと伝わってきて、私は胸が締め付けられる思いをした。戦争を知らない私にとってとても衝撃的なことであった。そんな中、祖母から私の曾祖父が神風特攻隊の飛行パイロットであったことを初めて聞いた。曾祖父は、いざ特攻というまさにその日、終戦を迎えたのである。あと数時間終戦が遅れていたなら、曾祖父は命を落とし、私の祖母、母、そして私はこの世に生をうけることはなかった。特攻前夜は、お頭付きの鯛等の料理とお酒が並べられたそうだ。また、当時配属されていた広島では、山の陰から原爆投下直後の強い光を見たそうだ。この戦争で命を落とした人達は、脈々と受け継がれてきた子孫を残すことが永遠に絶たれたのである。私達が今存在していただけるのは、とても奇跡的なことなのだと痛感させられた。

現在、二度と起こしてはいけない戦争が世界で起きている。私には実際に戦争を止める力はない。しかし、曾祖父の戦争のことや土崎空襲のことを私の子孫に語り継いでいくことで平和の尊さを伝えていきたいと思う。戦争という悲しい過去の歴史の延長戦上に「今」という時を私達は生きている。だから、決して過去を忘れてはならない。今生きていることに感謝し、戦争で命を絶たれた多くの人達の分まで私は精一杯生きていきたいと思う。